能美市議会広報誌

のみだより

平成28年
6月定例会

第50号

発行日:平成28年8月1日
発　行:能美市議会
編　集:広報特別委員会

今号の表紙

いつかきっとぼくたちも

8月5日からリオデジャネイロオリンピックが開催され、能美市緑が丘出身の小堀勇氣選手（競泳）が前回のロンドンに続き、2大会連続で出場します。世界の強豪を相手に金メダル獲得を目指し、大いに活躍されることを願い、市民の皆様とともに声援を送りたいと思います。
暑い日が続く中、「1メートルでも長く！」「1秒でも早く！」と、小学生が元気にプールで泳ぐ練習をしていました。
いつの日か、小堀選手に続き、世界を舞台に活躍するスイマーが現れることを期待したいですね。

目　次

◉ 定例会報告 …… 2
◉ 賛否一覧 …… 2
◉ 常任委員会審査報告 …… 3
◉ 討論 …… 3
◉ 一般質問 …… 4
◉ 辞職勧告決議 …… 10
◉ 議会報告会 …… 11
◉ 議会日誌（4月～6月）・議会日程・編集後記 …… 12

ピックアップ

平成28年6月定例会

今定例会は、6月6日（月）から6月20日（月）までの15日間の会期で開かれました。市長から提出された議案12件、報告4件、諮問1件について、可決・承認・答申しました。

また、議会議案として「山口慧子議員に対する議員辞職勧告決議」「次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書」を提出し、それぞれ可決しました。

なお、主な議案の内容は以下のとおりです。

●平成28年度能美市一般会計補正予算（P3に関連記事）

農林産物・加工品「買いたくなるもの」度アップ推進事業として600万円を追加補正

平成28年度能美市一般会計補正予算は、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ9,200万円を増額し、予算総額が237億5,200万円となりました。

能美市産農林産物の付加価値を高め、市内外にアピールするため、農林産物・加工品「買いたくなるもの」度アップ推進事業を実施するにあたり600万円の予算が計上されました。この事業は、全国有数の柚子の産地との交流を図るほか、能美市地域振興作物のブランド化に向けてハトムギや柚子の現状調査及び付加価値化をアドバイザー、生産者、JA、大学、行政等が連携して実施するものです。

なお、その他の一般会計補正予算の主な内容は、次のとおりです。

▲地域商品のプロデュースを手掛ける良品工房（東京都）の代表者を招き、「国造ゆず」の魅力向上について話し合われました。

- ●消防団組織費　1,757千円　能美市消防団の活動服の更新に対する助成金
- ●自治公民館施設整備事業　20,033千円　緑が丘第２コミュニティセンター新築工事に対する補助金
- ●コミュニティ助成事業　1,200千円　粟生獅子舞保存会の備品購入に対する補助金
- ●国際大会等出場者激励費　200千円　リオ・オリンピックに出場する選手を応援するための激励費等

※消防団組織費、自治公民館施設整備事業、コミュニティ助成事業には、一般財団法人自治総合センターからのコミュニティ助成金が充てられます。

●工事請負契約の締結（長野保育園・放課後児童クラブ新築工事）（P3に関連記事）

長野保育園の建設工事が始まります

保育園の統廃合計画に基づき、長野保育園が建設されることになりました。施設の規模は、保育園の定員数が180人、また、併設する放課後児童クラブの定員数が80人となる予定です。

来年5月に供用開始予定の長野保育園～完成イメージ図～▶

賛否が分かれた議案

○＝賛成、●＝反対、議長（北野哲）は採決に加わりません。
山口議員は、自身に関する事件であるため除斥。

議案名	仙台謙三	山本悟	田中大佐久	森善克	近藤博	橋本崇史	田中策次郎	開道昌信	嵐昭夫	南山修一	居村清二	北野哲	倉元正順	米田敏勝	東正幸	近藤啓子	山口慧子	杉田隆一
山口慧子議員に対する議員辞職勧告決議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	●	-	○
次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	●	●	○

このほかの議案などの審議結果は、能美市議会のホームページをご覧ください。

平成28年度一般会計補正予算

予算決算

●自治公民館施設整備事業
（20,033千円）

Q　緑が丘第２コミュニティセンター建設の必要性は何か

A　現在の「緑が丘会館」だけでは手狭であることや、高齢者の割合も増加していることから、高齢者の集える憩いの場、また、ふれあいの場としても、新たなコミュニティセンターが必要である

●消防団組織費（1,757千円）

Q　消防服を何着購入し、どういう購入の仕方をするのか

A　現在の能美市消防団員83人のうち、すでに購入済の幹部団員８人分を除く75着を入札によって購入する

平成28年度能美市水道事業会計補正予算

●石川県水道用水応急受水費用に係る一般会計繰入金（49,200千円）

Q　県水受水の実態及び地下水の水位の状況は

A　水道水源からの不足分を県水から受水している状況であり、水源からの水量に応じて対応している。地下水の水位は、濁水の影響や降水量が少ないことから水位の低下は昨年と変わらない状況になってきている

委員会審査報告

市長から提出された議案や請願は、4つの常任委員会に付託し、より詳細な審査を行っています。主な審査内容は次のとおりです。

委員会名	委員長	副委員長	委　員
総　務	米田　敏勝	橋本　崇史	杉田　隆一、居村　清二 山本　悟
産業経済	南山　修一	開道　昌信	近藤　啓子、嵐　昭夫 森　善克、田中大佐久
教育福祉	倉元　正順	近藤　博	山口　慧子、東　正幸 田中策次郎、仙台　謙三
予算決算	居村　清二	嵐　昭夫	議長を除く全議員

財産の取得（仮想化基盤システム購入）

総　務

平成23年に取得したシステムサーバー30台が、部品製造の中止などにより保守できなくなるため、仮想化基盤システムを利用して7台のサーバーに集約し、更新コストの削減を図るもの

Q　どれくらいの経費が削減できるか

A　現行と同じような状況で20年間運用すれば、削減経費は１億円程度見込める

工事請負契約の締結
（長野保育園・放課後児童クラブ新築工事）

教育福祉

Q　工事費の財源は

A　防音事業の補助金が5,400万円余り、子ども・子育て支援交付金が国・県でそれぞれ814万２千円、ほかに合併特例債、公共施設最適化事業債、建設計画促進基金などである

討論 ―こんな理由で賛成・反対しました―

６月20日の定例会最終日、各議員から活発な討論が行われました。
討論とは、採決の前に議題となっている案件に対し、賛成か反対かの自己の意見を表明することを言います。下記にその概要を掲載いたします。

●次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書

反　対
近藤 啓子
議員
（日本共産党）

2015年６月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針」では、介護保険制度において、改革にむけ更なるサービス削減、負担増の方針を決めている。この意見書は、こうした背景から出されており「福祉用具や住宅改修」において閣議決定の「見直し」を求めている点は、一定の理解をするが、内容が不十分である。

「高齢者の自立を支援し、介護の重度化を防ぐ」という介護保険の理念から言えば「軽度者」といわれる要介護支援や要介護１・２の方への支援の充実が必要。社会保障費の大幅削減をやめ「要介護１・２の保険外しをしないこと」「利用者負担を引き上げないこと」を求めていくことこそ時宜にかなっている。

●市長提出全議案

賛　成
橋本 崇史
議員
（能美保守の会）

条例の一部改正については、国の法律の一部改正により、低所得者に対する軽減措置の拡充を行うものや、中小企業の設備投資を支援し、地元企業の経営体力を高め、今後の雇用確保に繋がることが期待できるものであり、いずれも必要な改正と認め賛成する。

また、平成28年度補正予算については、国の地方創生加速化交付金を活用し、農林業振興を図る事業や、水道水の安定供給のため、石川県営水道から受水を受けるため緊急に予算措置が必要なもの等であり、補正内容も適切と認め賛成する。

能美市を発展させていくためにも、企業誘致の推進やスマートウェルネスコミュニティの実現など、将来を見据えた施策の展開を期待する。

近藤　博 議員
能美保守の会

公園管理

Q 能美市におけるすべての公園は重要な地域資源である。どのように利用され、憩いの場となっているのか現状を分析し、利活用の工夫をせよ

A 分析結果で利用度や重要度の低い公園があったとしても、変更や改良を含めた再整備などを実施することが現状の厳しい財政化において必要なのか、十分な検討が必要ではないかと思っている。

Q 公園の遊具点検や毛虫対策の消毒は、管理者が適時にチェックしているのか。多発する犯罪から防犯カメラの設置も検討する必要がある

A 平成23年度に能美市公園施設長寿命化計画を策定した。公園の樹木や芝の管理は、緑化業者に委託し、また、市職員も月1～2回、目視点検している。

防犯カメラは他市の事例を参考に、設置する公園や有効な場所を今後検討していきたい。

白山眺望看板

Q 白山眺望看板の設置を手取川橋近辺に設置し、辰口橋までの土手斜面の百花繚乱計画と楽しい散歩コースを長期的ビジョンで計画・実施してはいかがか

A 観光資源という観点から設置場所の選定は難しく、いまだ決定に至っていない。手取川堤防敷に植栽が施され百花繚乱ということになれば駐車場は問題なく、観光名所の一つとなる。しかし、堤防は国土交通省のものであり、どこまで可能なのか確認する必要がある。

また、健康ロードやのみでん広場も貴重な観光資源であり、看板設置の候補地でもある。利活用できないか検討したい。

▲白山の魅力が紹介されている白山眺望看板
（寄り道パーキング川北大橋）

一般質問

田中 策次郎 議員
能美保守の会

地域防災計画

Q 地域防災計画改正で配慮した点と、防災センターを防災力の向上にどう活かすのか。また、各町会における災害時の具体的な行動計画づくりを支援できないか

A 今回改正した地域防災計画では、女性の意見を具体的に取り入れ女性や要配慮者に細やかな備蓄品の整備を行った。

また、防災センターの体験施設により、地域ぐるみの防災・減災力向上に役立てたい。

災害時には市民みずから積極的に行動する事が必要であることから、地元で地区防災計画を立てることが大事である。計画づくりを支援していきたい。

地域の経済活性化

Q 地域でお金が回る仕組みを、支援する事が必要。地域企業や地元商店等に市はどのような指針で発注しているのか

A 大規模工事や特殊技術を要する工事には共同企業体を結成し市内業者の受注機会を確保しており、物品等についても、市内業者の優先的な受注機会を確保し、地域経済の活性化の一助として地元への受注機会の確保に努める。

また、優良企業同士のマッチング、情報交換などを取り組む場の創設を検討している。

障害者差別解消法

Q 障害を理解し個人を尊重し、支え合う共生社会の考え方を進めることが必要である。学校現場で合理的配慮の提供などの想定と対応を考えているのか

A 障害者差別解消法の趣旨を理解し、教職員が障害者に関する理解を深めることが重要であると考え、全教職員を対象に研修会を開催する。これからも障害のある児童生徒及び保護者と話し合い、合理的配慮を提供したい。財政的な支援が必要な場合は教育委員会として検討したい。

▲自助、共助、公助が一体となった「災害に強いまちづくり」の推進を

山本　悟 議員
能美保守の会

能美市民憲章

Q 合併12年目を迎え、今後10年を見据えた新たなまちづくりの指針となる第2次総合計画策定の時期に合わせ、市民憲章、市の木、花を制定するべき

A 今年度は第1次総合計画の目標最終年である。これまでの10年間を振り返り、その計画や実施状況について検証を行い、次の10年を見据え実現すべきまちづくりの姿を、長期的な視点から設定し、新たな指針の策定に取りかかる年である。また、昨年度末に策定した能美創生総合戦略や能美創生人口ビジョンでは2040年に4万8800人の確保を目標に掲げ、今新たに第2次総合計画の策定作業が進むこのタイミングで、市民が生活を営む道標となる市民憲章や市の木、花などについて、検討する時期に来ているのではないかと考えている。近隣市町の状況等も見ながら、来年度予算の目玉の一つとして、予算計上できるよう努力していきたい。

Q これらの制定に際し、市に愛着を持ってもらうことや、市民としてのアイデンティティを更に高める為に、広く市民から公募してはどうか

A この12年間で能美市民としての融和が進み、市民のアイデンティティもかなり高まってきていると思う。これを更に強固なものにする為にも、これらの制定が必要であると考える。

そして、これらの制定の際には、有識者を初め、市民を含めた組織を立ち上げ、広く市民の意見を取り入れ、市民の願いや希望を結集し、市民活動の規範となる市民憲章づくりに取り組み、親しみの持てる花や木になるように努めていくことが必要であると考えている。

▲旧3町の花（ハマナス、ツツジ、ノハナショウブ）

一般質問

開道 昌信 議員
真政会

多文化共生

Q 外国人登録者の数や国籍、昼間人口の実態は。来庁窓口での対応に問題はないか。地域住民との衝突、トラブルはないか

A 6月1日現在、外国人登録者数は1005人。国籍別では中国、ベトナム、タイが多く、世界41カ国に登る。昼間人口は、他地域との流入・流出の兼ね合いがあり、把握しきれていない。

窓口対応は、英語の長けた人員を配置しており、今のところ苦情等は無い。地域トラブルも具体的な苦情等は寄せられていない。

Q 災害緊急時の外国人へのサポート体制は

A 防災に関するパンフレットや避難誘導標識等、優先順位を検証し、多言語化に着手したい。

また、昨年、能美国際交流協会員と市内在住の外国人の方々とで市の防災に関する取り組み等を話す機会があり、災害時の行動や防災の基本を説明することができた。

Q 保育園や小中学校に在籍する外国人の実態は。また、保護者とのコミュニケーションや給食提供等に課題はないか

A 保育園には10か国37人の園児が、小中学校に8か国18人の児童生徒が在籍している。

給食に関しては、宗教上の理由による提供食材の制限要望への対応に大変苦慮している。

保護者との対応は、保育園では直接顔を合わせる登園、降園時にコミュニケーションで苦労している。小中学校では加配教員が日本語指導を行うほか、日本語支援員、国際交流員が翻訳業務等を行っており、良好な状態を維持している。

Q 国際交流の拡大とグローバル化に対応した多文化共生の促進を目指し、部署間連携を取り持つ、多文化共生推進室を設置せよ

A 多国籍にわたる外国人への対応が増えたと実感しているが、新部署の設置となれば専門的な職員養成も必要となる。当面は現在の体制で、各部署が綿密に連絡・連携を取り合っていくことで対応は可能であると思っている。

▲外国人に災害時の行動等を説明する国際交流協会員

嵐　昭夫 議員
市　民

防災対策

Q 地域防災計画は、平成28年3月25日付で修正発表されたが、熊本地震の検証等を踏まえて、見直しは検討されるか

A 平成25年の市内豪雨による避難勧告・避難指示の発令等の事例を踏まえ改正した。今般の熊本地震に対し、国や県の動向を注視し、地域の実情に即した防災計画の見直しを行うことが適切な対応措置と考える。

Q 避難所や福祉避難所のスタッフ確保に対する取り組みは

A 災害時に指定施設が使用できないことも想定し、市内の介護施設等を運営する事業所と「福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結。また、訪問介護等を運営する事業所と「介護・看護等人的支援に関する協定」、福祉用具を取り扱う事業所と「物資供給及び貸与に関する協定」を締結し、人員や必要物資の確保ができるよう支援体制を整備している。

Q 指定避難所や福祉避難所の耐震化の現状と受入可能人数は

A 指定避難所は、全ての建物で耐震性が確保され、洪水や土砂災害のリスクにも問題ない施設としており、現在は35か所で2万3602人が受け入れ可能。福祉避難所も同様にリスクに対応した施設としており、9か所で1460人が受け入れ可能である。

Q 土砂災害危険箇所に近い公共施設の安全対策をせよ

A こくぞう里山公園の南西側斜面が急傾斜地の崩壊危険箇所として指定され、和気小学校や国造保育園、国造コミュニティセンター敷地の一部が土砂災害警戒区域となった。

昨年実施した土砂災害調査によると、岩盤で崩落の危険性は少ないが、豪雨によって飽和状態となれば表土が崩れる恐れがあるとの結果が出た。児童生徒の安全、安心な環境づくりのためにも対策は必要であり、解決すべき課題を整理した上で対策工事を検討したい。

▲平成25年12月に実施された福祉避難所協定調印式

一般質問

橋本 崇史 議員
能美保守の会

スマートウェルネスコミュニティ

Q スマートウェルネスコミュニティを目指した能美市の現状の取り組みはどうか

A 鈴木雄介選手を輩出した競歩のまちという能美市ならではの強みを生かし、スポーツの基本である歩くこと、特に健康を意識し正しいフォームできれいに歩くといったスマートウォークの推進に本年度から取り組んでいく。

指導員の育成を平成31年に50人としているが、100日スポーツ運動達成者数の成果を踏まえ目標値の上方修正を検討したい。

Q 歩いて暮らせるまちづくりの公共交通に対する市の見解はどうか

A 今年度、のみバスの利用状況の分析と合わせ、交通弱者である高校生やその保護者、高齢者を中心にパーソントリップ調査や商工業や観光、医療、福祉、教育などの各種分野の主体へのヒアリング調査を行い、能美市におけるこれからの公共交通の在り方について検討していく。

鳥獣対策

Q 能美市の鳥獣被害の推移状況はどうか

A 平成20年度にピークがあり、4499万円の被害があった。

その後、侵入防止柵がおおむね完了した平成24年度には一旦107万円に減少したが、平成26年度には過去最高額となる509万円に被害が激増した。平成27年度は250万円に抑えられている。

Q 今後の能美市の鳥獣対策はどうか

A 現在21人を数える捕獲従事者も高齢化により減少が懸念されている。また、59基あるイノシシの捕獲おりも老朽化の状況を確認しながら計画的に整備を進めていきたい。

▲スマートウォークで「きれいな歩き方」の習得を

田中 大佐久 議員
能美保守の会

農地集積

Q 担い手への集積状況を示せ

A 能美市では、平成24年度に創設した、人と農地の問題を解決する将来設計図「人・農地プラン」を策定し、農地中間管理機構と連携しながら農地の集積を進めている。地域の経営体が158となり、能美市全体の農地面積の約78パーセントが経営体に集積されている状況である。また、離農された農家戸数累計は、67戸となり、今後も農地集積が加速化するものと推測している。そのため、引き続き農地中間管理機構との連携を密にし、各種制度を活用して農地集積を進めていきたい。

Q 経営体育成事業で支援している38経営体の内訳は。また融資について有利な制度になっているのか

A 個人の認定農業者が20経営体、認定就農者が1経営体、法人の認定農業者が14経営体、集落営農組織は3経営体となっている。また、融資に関しては、近代化資金や無担保・無保証人でも融資が受けられる追加的信用供与補助事業制度がある。農業者に手厚い制度となっている。

Q 農業機械の購入に対し、市単独で融資の利子補給を図れ

A 農地集積が加速化する状況において、非常に時宜にあった支援策であると考えている。ただ、今後の国のTPP交渉の展開や平成30年に予定されているコメの直接支払制度の廃止、1970年以降約半世紀にわたって継続されてきた生産調整（減反）制度の見直し等によって農業経営者の経営環境が大きく変化していくことが必至とされているので、国や県の動向を踏まえながら前向きに検討したい。

▲担い手が安心して農業経営できる環境を

一般質問

南山 修一 議員
勉 誠

辰口丘陵公園

Q 辰口丘陵公園の再整備充実を計画できないか

A 公園機能を充実し、交流人口を拡大する再整備を県公社に要望するのでなく、市が「ヒト・モノ・カネ」を積極的に提供し、全天候型の屋内施設建設を主導せよとの積極的で勇気ある提言であるが、県を無視して取り組むものはいかがなものか。また、今の市の財政状況等を勘案しても積極的に推し進めることには無理がある。

よって、各施設の改善、改修やこれらにあわせた新機軸を打ち出し、公園の活性化に努めてもらうよう県当局にお願いする。また、川北大橋有料道路が無料となり、県北部方面からの入り客が増加している。能美市の魅力向上を図り、交流人口の拡大に繋げていきたい。

九谷焼

Q 今後の九谷茶碗まつりの運営をどのように考えているか

A 九谷焼は、能美市が世界に誇る伝統工芸である。北陸新幹線開業2年目の端緒を飾るべく開催された今年の茶碗まつりは、初日の途中から強風の影響で中止となり、大変残念な結果となった。

しかし、期間中は、多くの県外からの来訪者が陶芸村を訪れ、既存店舗での買い物を楽しまれ同時に資料館、美術館では、多くの方が九谷焼の美を堪能されたと聞いている。改めて、九谷焼の知名度と底力をかいま見る思いがした。

九谷茶碗まつりは市が主催しているものではない。今後、どのように開催していくのかは、実行委員会の自助努力に期待する。

Q 九谷焼観光係を創設し、大々的な情報発信をせよ

A 現在の商工行政と観光行政という両面からサポートできるメリットを考えると、市役所内部に改めて、九谷焼観光係を設ける必要は現状ではないと思っている。

九谷焼業界への支援は今後とも継続すべきと考えている。

▲多くの親子連れで賑わう辰口丘陵公園

東　正幸 議員
能美保守の会

中山間地域農業

Q　TPP協定が成立した場合、能美市の農業にどのような影響があるか。どのようなメリットやデメリットが発生するか

A　国の試算によれば、米、大麦の生産が主体の能美市では影響は少ない。

メリットとしては、能美市の米や加賀丸いも、ハトムギ等は国内でも評価が高く、海外でも同様の評価が得られれば利益向上や生産量拡大に繋がる。デメリットとしては、安価で安全な海外農産物が流通した場合に消費者の反応次第で農家への影響が大きくなる。

Q　圃場の大型区画化や狭隘水路の改修等、今後の取り組みは

A　今後の中山間地域内での営農は、農地の大区画化や水路等の土地改良施設の改修等が必須である。今年5月に鍋谷町地内農地で大規模農業生産法人が自費で試験的にあぜを倒して農地の大区画化をしている。こうした取り組みを参考に、国庫補助事業で小区画田の大区画化や水路整備ができないか県とも協議を進めている。

地元や関係機関と今後も連携しながら、中山間地域の農業振興、農村活性化に努めていきたい。

Q　相続未登記の地権者の届出書類は、実質の管理者等で対応できないか。また、市外転出者の対応も事務の簡素化を推進すべき

A　農地の相続が発生した際、相続登記がされていない場合であっても、相続予定者には、相続が発生してから10カ月以内に農業委員会に権利移動の届け出をしてほしいと指導している。

国は、未相続農地の実態調査を実施して年内に結果をまとめ、国土交通省や法務省と連携し、この相続未登記農地の貸し出しへの条件を整え、新たな農地利用を促進させたいとしている。いましばらく猶予をいただきたい。

▲農地の大区画化について説明を受ける議員（鍋谷町地内）

一般質問

仙台 謙三 議員
公明党

食品ロス

Q　まだ食べられるであろう食品の損失、すなわち「食品ロス」の削減について、学校における取り組みを問う

A　学校では、配り残しがないよう学級担任が指導しており、児童会、生徒会などで、残菜ゼロを目標にしている。また、食育を通して、感謝の心を育んでいる。

調理残渣については、必要以上に野菜の皮をむかないことなどに心がけている。多くの学校では、ゴミ収集業者の協力を得て肥料へのリサイクル化に取り組んでいる。

若者の政治参加

Q　若者が社会における影響力を実感できる取組みを推進すべきと考えるが、能美市の取組みは

A　若者が興味を示すようなテーマをもとに、単に意見を述べるだけでなく、出た意見を自分たちで形に変えていける様な政策形成や町づくりの参加ができないか検討している。

また、青年期以前に、いかに郷土愛を醸成するかが非常に重要と考える。よって、学校教育で「ふるさと教育」の充実や「地元学」の推進にも取り組んでいきたい。

英語教員の英語力

Q　英語教員の英検準1級相当の30％強との文部科学省の調査結果がある。市の英語教員の英語力の現状と、今後の取組みを問う

A　英検準1級相当の資格を有する中学校英語教員の割合は、石川県では41.8％であり、能美市においても石川県と同程度であるというふうに考えている。

中学校の英語科授業は英語で行う事を基本とする事を、文部科学省は目指しており、これまで以上に担当教員の英語力向上が求められる。石川県教育委員会と連携しながら、英語担当教員の英語力向上を目指して取り組んでいきたい。

▲収穫体験等を通して食べ物を大切にする心を育みます

森　善克 議員
能美保守の会

西川流域の冠水対策

Q 冠水の抜本的な解決策となる「西川」「熊田川」の手取川合流部での樋門の設置について、工事が未だに開始されない理由及び工事開始時期の状況は

A 国では現在、手取川の流下能力の向上と西川、熊田川の増水時の水位低下を図るため手取川河口部の河道掘削を進めている。樋門設置工事は、この河道掘削工事の整備状況をみながら検討していくと聞いており、抜本的治水対策として早期着手を要望していく。

Q 豪雨が予想されるときの仮設ポンプによる強制排水はどのような対応が可能なのか。また、恒久的な設置ができないか

A 仮設ポンプによる強制排水の対応については、調整池など河川の隣接地に数台の8インチ程度の水中ポンプの設置を想定している。恒久的ポンプは設置維持管理費が高額となるため当面は仮設ポンプで対応したい。

根上海岸と体育施設

Q 根上海岸と体育施設を活用した誰もが参加できるイベントを検討してみてはどうか

A 根上海岸地区には多様な施設があり、海岸には保全活動により守り継がれてきたクロマツの松原や保安林がある。多くの方に海岸地区の良さを知って頂けるよう、翠ケ丘いこいの広場の多目的広場を初め、各種施設をめぐりながら自然にも親しめるようなイベント等を企画検討していく。

Q グリーンビーチの海水浴場の復活を願っている人も少なくない。海水浴場の再生及び海岸の整備は出来ないか

A 平成25年に、内灘海岸等で離岸流による死亡事故が発生したことを踏まえ、当市でも周辺を調査した結果、同様な状況であった。さらに波打ち際から急に水深が深くなっており海水浴場を廃止した。今後も遊泳者の安全確保が困難であり再開は非常に厳しい。

▲ボランティアによる海岸清掃が行われています

一般質問

近藤 啓子 議員
日本共産党

核兵器廃絶

Q オバマ大統領が初めて広島の平和記念公園を訪問し「核兵器なき世界を追求する」と演説した。市長の見解を問う

A 大統領の広島訪問は、日米両国にとって、歴史を飾る1ページとなる訪問であったと率直に感じている。原爆投下の当事国としての核なき世界への責任の明示である。

Q 能美市が「平和首長会議」に加盟したことは画期的な出来事である。市長の決意と具体的な取り組みについて伺う

A オバマ大統領が広島訪問で述べられた所見内容に鑑み、平和首長会議に加盟する首長らと連携しながら、核兵器の廃絶や平和教育に市長の立場で何が有効にできるか、ハード・ソフト事業の両面にわたり、有効な手立てがないか対処していく。

小中学校の組体操

Q 毎年、全国で8000件、能美市では平成27年度に12件の事故が起きている。政府も安全に実施する旨の事務連絡を行っている。具体的対応はどうか

A 教育委員会として、組体操の実施に当たっては、組織的指導体制を構築すること、児童生徒の体力等を踏まえ、段階的・計画的な指導を行うこと、安全対策を確実に講じること等の措置を行ったうえで実施することに決定した。

Q ピラミッドやタワーの高さ等は具体的な設定があるのか

A 現在、3つの小学校が実施し、協議の中で、ピラミッドの高さは3段、タワーの高さは2段という形で決定した。今後も、各校長と協議しながら組体操の実施の有無を含めた検討会を行いたい。

▲事故防止の徹底を

山口慧子議員に3度目の議員辞職勧告決議

～市民に陳謝し、政治的・道義的責任を明らかにせよ～

能美市議会議員政治倫理条例に違反したとして、昨年9月に議長から辞職勧告を受けていた山口慧子議員に対する「議員辞職勧告決議」が提出されました。昨年12月、今年3月に続き、今回で3度目の提出となるこの決議では、提案者である居村清二副議長が「本会議での発言を自粛することで説明責任の義務を放免されようとしている身勝手きわまりない態度は、議員として最低限必要な倫理観が大きく欠落している。その責任を自覚して議員を辞し、市民に陳謝し、みずからの政治的・道義的責任を明らかにすべき」と述べました。

その後、近藤啓子議員が反対討論を、嵐昭夫議員、森善克議員が賛成討論を述べ、採決の結果、近藤啓子議員を除く、全議員が賛成し、議員辞職勧告決議が可決されました。

反対 市民の信頼を損ねたと深く反省している

山口議員は、政治倫理条例に違反したことへの反省として、本会議での発言を自粛してきたが、9月議会までの通年1年間、本会議での発言を自粛すると表明した。

政治倫理審査会や議会での対応に不十分な点があったこと等への反省、何よりも政治倫理条例違反によって清潔で公正な政治をしてほしいという市民の信頼を損ねたことへの深い反省からである。

山口議員は、長男の会社の経営においても、事業の受注においても全くかかわっておらず、議員の地位を利用して便宜を図ったとか税金の使い方をゆがめたなどということは一切なく、議員の職を辞するべきとまでは考えておらず、このことは、政治倫理条例の理念を力ずくでねじ曲げることには当たらないと考えるものである。

議員として、本会議で発言しないということは重大なものがあり、ここを決断した。今後も、議案の調査、研究、市民の要求実現などに奮闘する決意である。

近藤 啓子 議員

賛成 決断すべきときは来ている

政治倫理審査会の議事録の中で、山口議員から「息子が公共工事の下請を2度も行うことが前もってわかっていれば、親子げんかをしてでもやめさせる」との発言があった。息子さんが悪いわけではない。山口議員があらかじめ倫理条例に触れることを説明していれば、けんかすることもないし、請負をすることもなかった。これは山口議員の義務違反が招いた結果である。

また、議員は、毎年、議長に身上書を提出することになっているが、その身上書に息子の職業を報告していないのは政治倫理条例に抵触する事実を知っていたからではないか。息子さんの立派な仕事を制限しているのではないか。

山口議員や日本共産党が疑惑を晴らすための説明を行うことなく、その主義主張である住民の苦難軽減と公正で清潔な政治の実現に努力すると訴えられても、果たして支持者の皆様は大変すばらしいことであると評価するのか。

山口議員に対する辞職勧告決議が、議長と近藤啓子議員を除く15人の議員から3度も提出されているということはどういう事態なのか。そして、今、何が求められているのかよくよく考え決断すべきときは来ている。

嵐　昭夫 議員

賛成 迷惑をかけた以上は責任をとれ

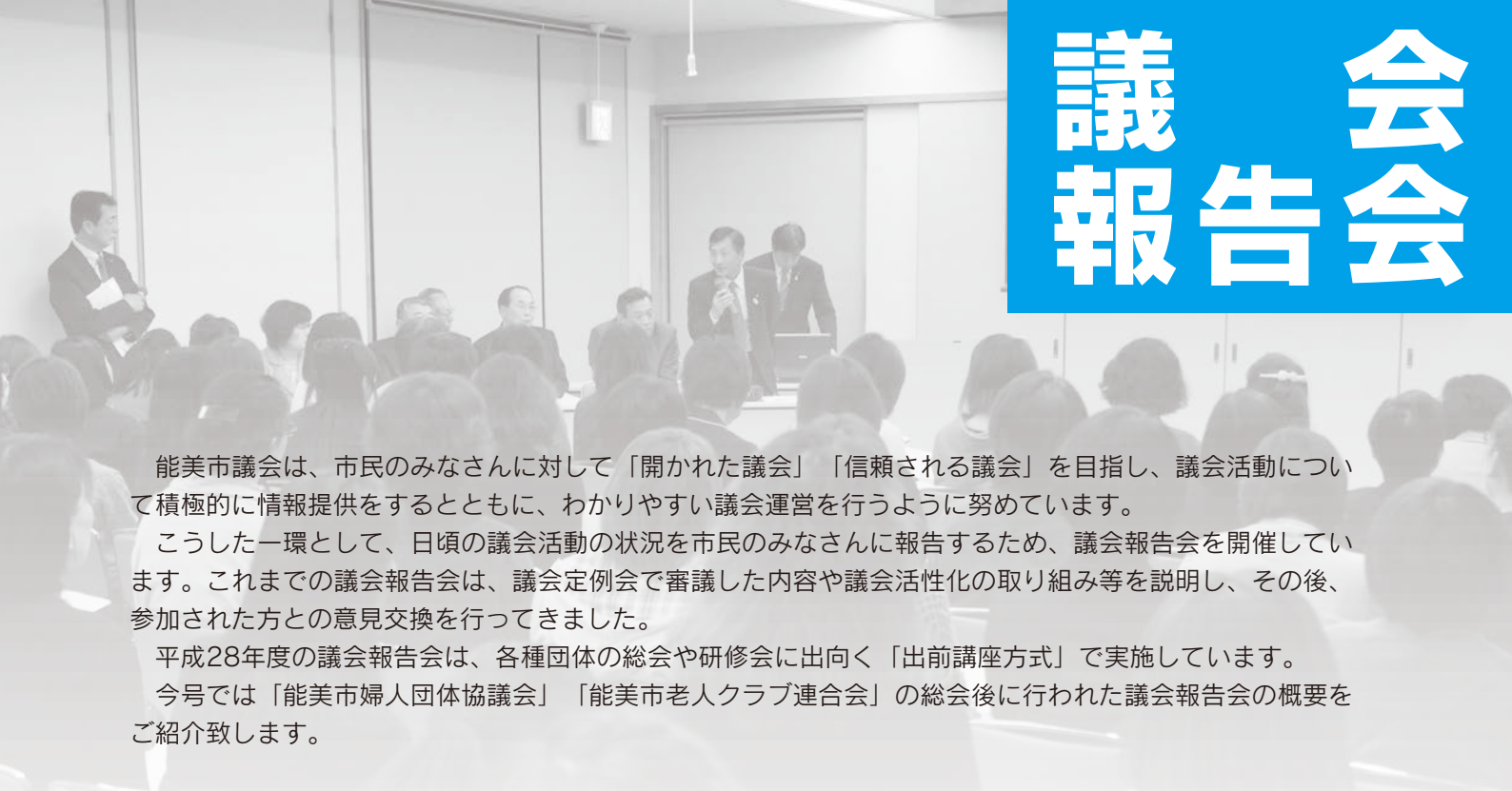
議員辞職勧告に対し山口議員は、執行部はなぜ事前にチェックしてくれなかったのか、自分は一切関わっていないなどと、自分には責任はなくあたかも執行部に責任があるかのような発言をし、一連の行為に対する説明は全く無い。自分に関係した問題が生じた場合、仮に自分に非が無いという認識であっても、まずは自分を振り返り、自分自身に問題がなかったかと考えるのが当然であるが、それを最初から責任転嫁しようとするなど、通常考えられない全くあきれた言動である。

山口議員はこれまでの謝罪の中で、市民の皆様と議会に対して多大なご迷惑をかけたと述べているが、迷惑をかけた以上は当然責任をとらねばならず、謝罪だけで済むことはありえない。一方でその責任については、これまで以上に住民の苦難軽減のために議員として努力していくことと述べているが、これは元々議員に課せられた本来の責務であり、今回の条例違反に対しての責任にはなりえない。早急に本当の意味での責任をとるべきである。

能美市議会が、開かれた信頼される議会を目指し、議員全員で定めた政治倫理条例を、二度も違反しながらあまりにも軽く考え、その責任をとろうとしない一連の行動は、決して見過ごすことはできず議員を続ける資格はない。

森　善克 議員

議会報告会



能美市議会は、市民のみなさんに対して「開かれた議会」「信頼される議会」を目指し、議会活動について積極的に情報提供をするとともに、わかりやすい議会運営を行うように努めています。

こうした一環として、日頃の議会活動の状況を市民のみなさんに報告するため、議会報告会を開催しています。これまでの議会報告会は、議会定例会で審議した内容や議会活性化の取り組み等を説明し、その後、参加された方との意見交換を行ってきました。

平成28年度の議会報告会は、各種団体の総会や研修会に出向く「出前講座方式」で実施しています。

今号では「能美市婦人団体協議会」「能美市老人クラブ連合会」の総会後に行われた議会報告会の概要をご紹介致します。

婦人団体協議会

【開催日時】平成28年4月14日(木)
【開催場所】ふるさと交流研修センター「さらい」
【参加者数】約100人

～テーマ～ 市議会の役割と全国住みよさランキング第３位の評価

「住みよさランキング」とは、公的統計をもとに、それぞれの市が持つ“都市力”を「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5つの観点に分類し、採用15指標について、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出、その単純平均を総合評価としてランキングしたもの。能美市は、平成25年度が19位、26年度が9位、27年度が3位となった。

その主な要因は、住宅着工戸数の増加などが寄与し「快適度」では全国9位となったほか、保育所関連の指標の高さや出生数の増加などから「安心度」の順位が上昇したことであると説明しました。

～アンケートから～

- 興味深い話がたくさん聞けました。
- 議員目線のコメント。身近に感じられるように思われました。
- 議会のことを知る機会が今までなかったので良かった。ただ、時間が短かったのが残念。
- 良いところのクローズアップばかりだった。
- 選挙権年齢が18歳になったことについて何かPR活動をしているのか。

老人クラブ連合会

【開催日時】平成28年5月10日(火)
【開催場所】寺井地区公民館
【参加者数】約50人

～アンケートから～

- 今後の市の活性化の具体案をもっと入れてよかったのでは。
- もう少しゆっくり説明してほしい。
- 能美根上インターチェンジや工業団地をテーマに取り上げてほしい。
- 高齢化率を低下させるためには、子どもや若者を優遇する施策が必要ではないか。

～テーマ～ 能美市の人口ビジョンと高齢者福祉施策

能美市では、2040年の将来目標人口を48,800人と定め、中でも、65歳以上の割合が32％を占めると予想。中山間地区だけでなく、町会・町内会の総人口の３人に１人を65歳以上が占める町会・町内会が増えるという推計結果も出ている。

老年人口の増加により、自家用車を運転できなくなる市民が増加することが予想され、買い物や医療機関等への移動弱者が増加する恐れがあり、日常生活が不便になることで、さらに人口が流出するという悪循環に陥る可能性がある。また、除草や除雪といった生活環境の維持、まつりや行事等の地域コミュニティの維持が困難になると説明しました。

※10月には寺井高校生、来年2月には能美市連合壮年団との議会報告会（意見交換会）を予定しています。

こんな活動しています

総　務･･･総務常任委員会　　議　運･･･議会運営委員会　　基　地･･･基地対策特別委員会
産　経･･･産業経済常任委員会　　全　協･･･議会全員協議会　　いじめ･･･いじめ・虐待等社会問題対策特別委員会
教　福･･･教育福祉常任委員会　　広　報･･･広報特別委員会　　活性化･･･議会の活性化に関する検討会

4月

8日　広報（議会だより49号の編集）
　　活性化（議会活性化、議員報酬、議員定数）
11日　議運（議会報告会他）
　　全協（　〃　）
13日　広報（議会だより49号の再編集）
18日　教福（各課報告）
　　いじめ（調査研究）
21日　総務（各課報告）
25日　広報（議会報告会）
26日　産経（各課報告）

5月

6日　活性化（議員報酬、議員定数）
11日　視察受入（議会運営：富谷町）
17日　教福（各課報告）
23日　いじめ（調査研究）
24日　産経（各課報告）
26日　視察受入（老人保健施設：赤穂市）
30日　総務（各課報告）
　　議運（第２回定例会会期日程）
　　全協（　〃　）
　　広報（議会報告会）

6月

3日　議運（一般質問発言順）
6日　議運（議事日程）
　　全協（　〃　）
　　本会議（開会、議案上程、提案理由説明）
7日　活性化（議員報酬、議員定数）
10日　議運（議事日程）
　　全協（　〃　）
　　本会議（一般質問）
13日　本会議（一般質問、質疑、委員会付託）
14日　予算決算常任委員会全体会
　　産経、予算決算産経分科会（付託案件の審査）
15日　総務、予算決算総務分科会（付託案件の審査）
　　教福、予算決算教福分科会（付託案件の審査）
17日　いじめ（調査研究）
　　予算決算常任委員会全体会
　　議運（第３回定例会会期日程他）
20日　議運（議事日程）
　　全協（　〃　）
　　本会議（委員長報告、質疑、討論、採決、閉会）
　　広報（議会だより50号のレイアウト案）
28日～29日
　　基地視察（航空自衛隊三沢基地）

本会議の録画映像をHPで配信しています　能美市議会映像配信　検索

平成28年
9月定例会のお知らせ
（会期：9月5日～9月23日）

皆さまお気軽に傍聴にお越しください

●9月 5日㈪　提案理由説明
●9月12日㈪　一般質問
●9月13日㈫　一般質問
●9月23日㈮　委員長報告、討論、採決

ご意見・ご感想

『のみだより』へのご意見・ご感想や能美市議会へのご意見などございましたら、下記の宛先までお寄せください。

〒923-1297 能美市来丸町 1110 番地
能美市議会事務局
ＴＥＬ：(0761)58-2240
ＦＡＸ：(0761)58-2295
E-mail：gikai@city.nomi.lg.jp

編集後記

能美市議会広報「のみだより」第50号が完成しました。今回も、幾度の編集会議を経て、６月議会や他の議会活動の内容を皆様へお届けできる事は喜びでもあり、またある面、不安でもあります。

多くの方々にとって、本当に分かり易い内容や文章となっているか、レイアウトは、または文字の大きさやスタイルはなど、試行錯誤を重ねながらの発行は、一回一回が市民の皆様方からの、やや大げさな表現ではありますが、審判を待つ心持です。

50回目となる能美市議会から皆様へのご報告が、議会の活動をよりよく知って頂く為の一助となります様強く願っています。そして、皆様方からのご指摘やご指導を頂きながら、毎号、より良き内容の「のみだより」をお届けできます様、精進して参ります。

（仙台　謙三）

広報特別委員会　委員長：嵐 昭夫　副委員長：田中大佐久　委員：開道 昌信、田中策次郎、橋本 崇史、近藤 博、仙台 謙三

PRINTED WITH SOYINK
能美市議会だよりは環境に優しい再生紙及び大豆油インキを使用しています。